

製品安全データシート

作成 平成5年4月27日

改定 平成15年6月20日

1. 製品及び会社情報

製品名 IDEMITSU PP(ナチュラル)
会社名 出光石油化学株式会社
住所 〒130-0015 東京都墨田区横網1丁目6番1号
担当部門 安全環境品質保証室
電話番号 03-3829-1286 FAX番号 03-3829-0943
緊急連絡先 カスタマーサポートセンター 需給課
電話番号 0436-63-1304 FAX番号 0436-63-1361

整理番号 2040-10

2. 組成、成分情報

化学名 : ポリプロピレン
組成 : ポリプロピレン 80~100 %
* エチレン 又は エチレン α オレフィンコポリマー 0~20 %
添加剤 2 % 以下

化学式又は構造式
ホモポリマー : $[\text{CH}_2-\text{CH}(\text{CH}_3)]_m$
コポリマー : $[\text{CH}_2-\text{CH}(\text{CH}_3)]_m-[\text{CH}_2-\text{CH}_2]_n$

官報公示整理番号等 :
化学法(安衛法)番号 CAS NO.
プロピレンホモポリマー (6)-402 9003-07-0
エチレン α オレフィンコポリマー (6)-10 9010-79-1

危険有害成分 : P R T R法の指定化学物質、労働安全衛生法の通知対象物質は含有しない。

3. 危険・有害性の要約

危険有害性分類基準に該当しない。

4. 応急処置

目に入った場合 : 危険な物質ではないが、眼球を傷つける可能性があるため、清浄な水で十分に洗い流す。
異物が目に残るようであれば、眼科医の手当てを受ける。

皮膚に付着した場合 : ベレットや粉末の場合は、石鹸・水でよく洗い流しておく。
溶融物が付着した場合には、衣服の上から大量の水をかけ、十分に冷却し衣服を脱がせ、医師の手当てを受ける。

吸入した場合 : 高温の溶融樹脂から発生するガスをひどく吸入したときは、新鮮な空気のある場所に移ること。
咳、呼吸困難やその他の症状が出たときは、医師の手当てを受ける。

飲み込んだ場合 : 危険な物質ではないが、出来るだけ吐き出し、異常を感じるようであれば医師の手当てを受ける。

5. 火災時の措置

- 消火方法 : 一般火災と同じ消火方法を用いて差し支えない。
消火剤 : 水、泡消火剤（エアフォーム）、粉末消火剤等を用いることが出来るが、水は冷却効果が大いなので水を使用することが望ましい。

6. 漏出時の措置 (引用文献 1)

- (1) 掃き取り、回収または廃棄する。
- (2) ベレット、粉末共に床面に残ると滑る危険性が高いので、こまめに処理する。
- (3) 排水系などの水面へ漏出した場合は、魚類、鳥類等への悪影響もあるから全て回収すること。

7. 取扱い及び保管上の注意

- 取扱い : (1) ベレット状の樹脂は、常温では引火のおそれはないが、作業場では火気をみだりに使用する事を避け、整理整頓に努める。
(2) 粉末状の樹脂が存在する時は、粉じん爆発の可能性があるので、これらの滞留を避ける。
(3) 空気移送、バグフィルター、ホッパー等の設備は静電気を除去するため接地を行う。
- 保管 : (1) 直射日光、水濡れ、急激な温度変化等を避ける。
(2) 貯蔵場所では、みだりに火気を使用しない。

8. 暴露防止及び保護措置

- 管理濃度 : 設定されていない。
許容濃度 : 樹脂の粉末についての許容は定められていないが、下記の値を準用するのが適当と考えられる。(引用文献 2))

| | 時間荷重平均値 | |
|--|---------------------|----------------------|
| | 吸入性粉塵 | 総粉塵 |
| 日本産業衛生学会勧告値 (2000年) 第3種粉塵 (その他の無機および有機粉塵) | 2 mg/m ³ | 8 mg/m ³ |
| ACGIH勧告値 (2000-01年) 一般粉塵 (Nuisance Dust) | 3 mg/m ³ | 10 mg/m ³ |

- 設備対策 : 粉塵を発生する場合、又は溶融混練等で蒸気、ガスが発生する場合は局所排気装置を設置するのが望ましい。
保護具 : 粉塵が多い場合は防塵マスク、保護マスクを着用するのが望ましい。

9. 物理的及び化学的性質

- 外観等 : 半透明、乳白色ベレット、白色粉末
融点 : 125℃以上 (グレードにより異なる。)
比重 : 0.88~0.92 (グレードにより異なる。)
溶解度 : 水 ; 不溶

10. 安定性及び反応性情報

可燃性 : あり (消防法指定可燃物)

自然発火性 : 自然発火温度 : 440℃ (雲状) (引用文献 3))

自己反応性・爆発性 : なし

粉じん爆発性 : 粉じんは爆発性混合気を生成する場合がある。(引用文献 3))
(爆発下限界温度 平均粒径 35 μm にて 15 g/m³)

安定性・反応性 : 一般的な貯蔵、取扱においては安定で、反応性はない。

11. 有害性情報

皮膚腐食性 : なし

刺激性 : 皮膚や目に対し、物理的な刺激がある。

感作性 : なし

急性毒性 : (1) マウスに安定剤を含まない粉末を 8 g/kg 投与したが、何ら障害は認められなかった。(引用文献 4))

(2) ラットに 14℃ でラベルした試料を経口投与した場合、その物質は体内に全く認められず、摂取量が完全に排泄された。(引用文献 4))

慢性毒性 : マウス、ラットに 20℃ 及び 80℃ における水抽出物を約 15ヶ月投与したが、対象群と比較して、条件反射能力、体重、肝臓重量比に著しい変化は認められなかった。(引用文献 4))

がん原性 : IARC の発がん性区分でグループ 3 (ヒトに対して発がん性について分類できない。) に分類されている。(引用文献 5))

12. 環境影響情報

海岸生物、鳥類が摂取することを防止するため、いかなる海岸や水域でも投棄、放出してはならない。

13. 廃棄上の注意

廃棄物は原則として、焼却又は埋立てによって処理する。

(1) 焼却するときは、焼却設備を用いて大気汚染防止法等に適合した処理を施し、焼却する。

(2) 埋立てる時は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に従って、処理する。

14. 輸送上の注意

国運分類、国連番号 : 該当しない

(1) 梱包袋が破れないように、水濡れや乱暴な取扱いを避ける。

もし、破袋してペレットが飛散した場合は、滑って転倒しないように注意する。流出したものは速やかに全量回収する。

(2) 空気移送の場合は移送速度を低くしたり、確実な接地を行うなど静電気災害防止対策を確実に実施する。

15. 適用法令

労働安全衛生法

消防法

PRT法

通知対象物質

指定可燃物

該当しない

該当しない

(合成樹脂類) (3000 kg)

16. その他の情報
引用文献:

- 1) 樹脂ペレット流出防止マニュアル
日本プラスチック工業連盟、1993年2月
- 2) 産業医学 VOL. 34, 1992 P371
- 3) 可燃性粉じんの爆発危険性評価技術
労働省産業安全研究所 安全資料 RIIS-SD-90-1, 1990
- 4) 食品用プラスチック衛生学、厚生省環境衛生局食品化学課 (講談社)
- 5) IARC MONOGRAPHS Supplement No 7
Overall evaluations of carcinogenicity: An updating of IARC Monographs Volumes 1 to 42, 1987

記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成しており、記載の情報は新しい知見により改訂されることがあります。
また、注意事項は通常の取扱を対象としたものであって、特殊な取扱の場合は用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご利用下さい。
記載内容は情報提供であって、保証するものではありません。

(2/6)

製品安全データシート

製品名： プライムポリプロ J106

整理番号： P10352-00

作成： 2011/1/31

改訂：

特定標的臓器/全身毒性(反復暴露)

吸引性呼吸器有害性

水生環境有害性(急性)

水生環境有害性(慢性)

分類できない

分類できない

分類できない

分類できない

GHSラベル要素

絵表示： 非該当

注意喚起語： 非該当

危険有害性情報： 非該当

注意書き： 非該当

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別： 混合物
成分及び含有量

| 成分名称 | 含有量 wt. % | CAS# | 官報公示整理番号 | | 安衛法 通知対象 | PRTR法 | 毒劇法 |
|-------------|--------------|-----------|----------|---------|-------------|-------|-----|
| | | | 化審法 | 安衛法 | | | |
| ポリプロピレン | >99 | 9003-07-0 | (6)-402 | (8)-402 | 非該当 | 非該当 | 非該当 |
| 添加剤(酸化防止剤等) | <1 | 非公開 | 非公開 | 非公開 | 非該当 | 非該当 | 非該当 |

4. 応急措置

吸入した場合：

高温の溶融樹脂から発生するガスを多量に吸入した場合は、空気の新鮮な場所に移すこと。症状変化が現れた場合には、直ちに医師の手当を受けること。

被災者が呼吸していて嘔吐がある場合は、顔を横向きにする。呼吸に関する症状が出た場合には、直ちに医師の手当てを受けさせること。

呼吸が止まっている場合又は呼吸が弱い場合には、衣服を緩め、呼吸道を確保した上で人工呼吸(又は酸素吸入)を行う。

身体を毛布などで覆い、保温して安静に保ち、直ちに医師の手当てを受ける。

皮膚に付着した場合：

汚染された衣類、靴等を速やかに脱ぐ。

付着した製品を拭き取り、水又はぬるま湯で洗い流しながら石鹸を使ってよく洗い落とす。

皮膚刺激又は発疹が生じた場合は、医師の診断/手当てを受ける。

溶融物が皮膚に付着した場合は、衣服の上から多量の水をかけて十分に冷却する。

皮膚に貼り付いたポリマーや衣服は無理に剥がさないで、直ちに医師の手当てを受けること。

目に入った場合：

直ちに清浄な水で15分以上洗浄する。

洗浄の際、可能ならばまぶたを指でよく開いて、眼珠、まぶたのすみずみまで水が行き渡るよう洗浄すること。

コンタクトレンズを使用している場合には、固着していない限り、取り除いて眼を洗浄すること。

異物感が眼に残る様であれば、速やかに眼科医の手当てを受けること。

飲み込んだ場合：

水で口の中を洗浄し、コップ数杯の水または牛乳を飲ませて、直ちに医師の手当てを受けること。

可能であれば、指を咽喉に差し込んで吐き出させる。

被災者に意識のない場合は、口から何も与えてはならない。

(3/6)

製品安全データシート

製品名: プライムポリプロ J106

整理番号: P10352-00

作成: 2011/1/31

改訂:

5. 火災時の措置

消火剤: 霧状水、粉末、二酸化炭素、泡
 使ってはならない消火剤: 棒状に噴出する水
 火災時の特有の危険有害性: 火災条件下で熱分解し、空気と混合して爆発性混合気を生じる恐れがある。
 特有の消火方法: 移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移すこと。
 消火を行う者の保護(保護具等): 可能であれば、周囲の設備などに散水して、冷却すること。
 火災発生場所の周辺に、関係者以外の立ち入りを禁止すること。
 消火作業の際は、状況に応じた保護具を必ず着用すること。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、
 保護具及び緊急時措置: 漏出した場所の周辺にロープを張るなどして、関係者以外の立ち入りを禁止する。
 作業の際は保護具を着用し、接触および粉じんの吸入を避けること。
 この製品がこぼれた場所は、滑りやすいので注意すること。
 高温の溶融樹脂から発生するガスは、眼や呼吸器を刺激する恐れがある。
 環境に対する注意事項: 環境においては長期間分解しないため、環境汚染の原因となるが、ポリマーの水溶性性は無視できるので、水性生物に対する毒性は弱いと思われる。
 環境への影響を起ささないよう河川などに放出しない。
 ペレットやパウダーは海洋生物、鳥類が誤って食べることがあるので、いかなる海洋や水域にも投棄、放出してはならない。
 封じ込め及び浄化の方法、機材: 飛散したものは、掃き集めて紙袋またはドラムなどに回収すること。
 掃除機が粉じんを撒き散らす元とならないように注意。
 溶融状態で漏出したときは、水等で冷却し、固化した後に回収すること。
 二次災害の防止策: 周囲の着火源となるものを速やかに取り除く。
 火花を発生しない安全な用具を使用する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策: 防爆型の電気機器/換気装置/照明機器、及び火花を発生しない工具を使用すること。
 電気機器類は防爆構造の物を用い、静電気対策を行なうこと。
 取扱場所は換気を良くし、その周辺での火気、スパーク、高温物の使用は禁止する。
 吸入、皮膚への接触を防ぎ、また眼に入らないよう適切な保護具を着用すること。
 取扱場所の近くには、手洗い、洗眼等の設備を設け、取扱後に、手、顔等をよく洗う。
 局所排気・全体換気:
 注意事項: 取扱う場合は、局所排気内又は全体換気の設備のある場所で取扱う。
 空気と混合して粉じん爆発の可能性があるため、これらの滞留を避けること。
 安全取扱い注意事項: 使用前に取扱説明書を入手すること。
 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
 この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
 局所排気内又は全体換気の場所で取り扱うこと。
 粉じん、高温の溶融樹脂ガスが発生しない様に取り扱う。
 溶融物との接触の防止のため適切な個人用保護具を着用する。
 ペレットやパウダーは、床に残ると滑りやすいので、常に清掃して取り除くこと。

(4/6)

製品安全データシート

製品名: プライムポリプロ J106

整理番号: P10362-00

作成: 2011/1/31

改訂:

保管

適切な保管条件: 直射日光を避け、火気、熱源から遠ざけて保管すること。
換気の良い冷暗所に保管し、高温、高湿を避ける。

安全な容器包装材料: 屋内貯蔵を原則とする。
製品使用容器に準じる。

8. 暴発防止及び保護措置

設備対策: 取扱い場所には、全体換気装置を設置すること。
できるだけ、密閉された装置・機器又は局所排気装置を使用する。
取扱い場所の近くに、洗眼および身体洗浄のための設備を設置すること。

許容濃度

| 成分名称 | 安衛法 管理濃度 | 日本産業衛生学会 | | ACGIH (TLV-TWA) | |
|---------|-------------|-------------------------------|-----------------------------|-------------------------------|-------------------------------|
| | | 吸入性粉塵 (mg/m ³) | 総粉塵 (mg/m ³) | 呼吸性粉塵 (mg/m ³) | 吸入性粉塵 (mg/m ³) |
| ポリプロピレン | 未設定 | 2 | 8 | 3 | 10 |

保護具

呼吸器の保護具: 指定された個人用保護具を使用すること。
防塵マスク

手の保護具: 指定された個人用保護具を使用すること。
保護手袋

目の保護具: 指定された個人用保護具を使用すること。
保護眼鏡 (ゴーグル)、保護面

皮膚及び身体の保護具: 指定された個人用保護具を使用すること。
安全帽、保護衣、安全靴

9. 物理的及び化学的性質

製品

物理的状態: 固体

形状: ペレット

色: 白色又は乳白色

臭い: ほとんど無臭

融点・凝固点: 160-165(°C)

引火点: データ無し

自然発火温度: >280(°C) ASTM E659

燃焼又は爆発範囲: データなし

比重: 0.89-0.92(23°C)

溶解性: 水: ほとんど不溶

分解温度: データなし

10. 安定性及び反応性

安定性: 通常の取扱いでは安定である。

危険有害反応可能性: 酸化剤と反応する。

避けるべき条件: 高温、高湿雰囲気下での保管を避ける。
火源との接触を避ける。

混触危険物質: 酸化剤との混合、接触を避ける。

危険有害な分解生成物: 一酸化炭素、二酸化炭素、炭化水素及びその酸化物。

(5/6)

製品安全データシート

製品名: プライムポリプロ J108

整理番号: P10352-00

作成: 2011/1/31

改訂:

11. 有害性情報

製品

| | |
|----------------------|-----------------------------|
| 急性毒性 (経口): | データ無し |
| 急性毒性 (経皮): | データ無し |
| 急性毒性 (吸入): | データ無し |
| 皮膚腐食性/刺激性: | データ無し |
| 眼に対する重篤な 損傷性/刺激性: | データ無し |
| 呼吸器感作性: | データ無し |
| 皮膚感作性: | データ無し |
| 生殖細胞変異原性 (変異原性): | AMBS試験:データ無し, 染色体異常試験:データ無し |
| 発がん性: | IARC:3 (ポリプロピレンとして) |
| 生殖毒性: | データ無し |
| 特定標的毒性/全身毒性-単回暴露: | データ無し |
| 特定標的毒性/全身毒性-反復暴露: | データ無し |
| 吸引性呼吸器有害性: | データ無し |

12. 環境影響情報

製品

| | |
|----------------|-----------------|
| 生態毒性 | |
| 急性毒性 (魚毒性): | データ無し |
| 急性毒性 (ミジンコ毒性): | データ無し |
| 急性毒性 (藻類成長阻害): | データ無し |
| 慢性毒性 (魚毒性): | データ無し |
| 慢性毒性 (ミジンコ毒性): | データ無し |
| 慢性毒性 (藻類成長阻害): | データ無し |
| 残留性/分解性: | 環境においては長期間分解しない |
| 生体蓄積性: | データ無し |
| 土壤中の移動性: | データ無し |

13. 廃棄上の注意

廃棄方法: 焼却処理を行なう場合、完全に分解させるために燃焼室の温度を800℃以上に保持する。
都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託し、関係法令を遵守して適正に処理する。
空容器を廃棄する場合、内容物を完全に除去した後に処分する。

14. 輸送上の注意

国連分類: 国連定義の危険物に該当しない。

15. 適用法令

| | |
|--------|---|
| 消防法: | 指定可燃物(合成樹脂類)発泡させたもの: 20 m ³ 、その他のもの: 3000 kg |
| 毒劇法: | 非該当 |
| 安衛法: | 非該当 |
| 化審法: | 非該当 |
| PRTR法: | 非該当 |

(6/6)

製品安全データシート

製品名： プライムポリプロ J106

整理番号： P10352-00

作成： 2011/1/31

改訂：

外国為替及び外国貿易管理法、輸出貿易管理令

別表16項該当品目（キャッチオール規制物質）（輸出の際に許可申請要件（客観要件、インフォーム等）に該当する場合、輸出許可が必要。）

16. その他の情報

参考文献等：

化審法の既存化学物質 安全性点検データ集（化学品検査協会）
国際化学物質安全性カード 日本語版（化学工業日報社）
環境化学物質要覧（環境庁環境化学物質研究会）
新版危険・有害性便覧（中央労働災害防止協会）
自社データ
原材料のMSDS
化学品安全管理データブック（化学工業日報社、2000）
樹脂ペレット流出防止マニュアル（日本プラスチック工業連盟、1993）
IARC Monographs on the Evaluation of Carcinogenic Risks to Humans
RTECS (U.S. DEPARTMENT OF HEALTH AND HUMAN SERVICE)
JIS Z7252:2009 GHSに基づく化学物質等の分類方法

免責文：

記載内容は現時点で入手できた情報に基づいて作成しておりますが、記載のデータや評価に関しては、いかなる保証をなすものではありません。危険有害性の評価結果は、今後の新しい知見で改訂されることもあります。また、記載事項は当該製品についての通常の取扱いを対象にしております。特別な取扱いや他の成分との組み合わせ使用の場合は用途・用法に適した安全対策を実施の上お取扱い願います。